

催し物のご案内

2021年度 子ども自然科学作品展

開催期間／4月23日(土)～5月8日(日) ※4月25日(月)は休館日
開催場所／特別展示室
観覧料金／無料(常設展は別料金)

夏休みの自由研究や日頃から行っている調査研究の成果など、自然科学に関する小・中学生の研究作品を展示します。コロナ禍にも関わらず、今回も数多くの力作が寄せられました。作品の一つひとつに当館学芸員のコメントが付けられ、児童・生徒の皆さんの今後の研究の参考にもなります。ぜひご覧ください。



《 事前申し込みの講座 》

詳細は、博物館ウェブサイトや催物案内をご覧ください。

- 植物図鑑の使い方～春の花編～[博物館、他]
日時／4月16日(土) 10:00～12:30 ※雨天中止
対象／小学4年生～成人・教員 15人
※小学生は保護者参加必須、その場合は幼児連れ可。
申込締切:4月5日(火)
- 磯の生きものウォッチング(1)[真鶴町]
日時／4月17日(日) 10:00～14:00 ※荒天中止
対象／小学生とその保護者 20人
※保護者参加必須
申込締切:4月5日(火)
- 春の里山の植物[横浜市]
日時／4月23日(土) 10:00～15:00 ※雨天中止
対象／小学生～成人 30人
※小学生は保護者参加必須
申込締切:4月12日(火)
- 昆虫採集連続講座～目指せ昆虫博士～
[博物館、県西部の里山]
日時／4月24日(日)、5月22日(日)、6月26日(日)、
9月18日(日)、10月23日(日)、1月29日(日)
9:30～16:00 ※6日間の参加が条件です。
対象／小学5年生～高校生のうち、昆虫採集に強い
興味がある人 10人
申込締切:4月12日(火)
- 新しい「神奈川・共生展示室」を考えるためのワークショップ(1)
～何度でも見たい展示を考える～[博物館]
日時／4月29日(金・祝) 13:30～16:00
対象／高校生以上 15人
申込締切:4月16日(土)
- ゾウの頭を考える[博物館]
日時／5月1日(日)、5月29日(日)、7月10日(日)
10:00～16:00 ※3日間の参加が条件です。
対象／大学生以上 10人
申込締切:4月19日(火)
- 木の実・草の実を知ろう[博物館]
日時／5月3日(火・祝) 13:30～15:30
対象／高校生～成人 10人
申込締切:4月19日(火)
- おやこで貝がらをしよう(1)・(2)[博物館]
日時／5月5日(木・祝)
(1)10:00～12:00 (2)13:30～15:30
※(1)と(2)は同じ内容です。
対象／小学生とその保護者 各回6組18人
※保護者参加必須
申込締切:4月21日(木)
- 新しい「神奈川・共生展示室」を考えるためのワークショップ(2)
～友だち・パートナーと見たい展示を考える～[博物館]
日時／5月21日(土) 13:30～16:00
対象／高校生以上 15人
申込締切:5月10日(火)
- 磯の生きものウォッチング(2)[真鶴町]
日時／6月4日(土) 10:00～14:00 ※荒天中止
対象／小学生とその保護者 20人
※保護者参加必須
申込締切:5月24日(火)
- 新しい「神奈川・共生展示室」を考えるためのワークショップ(3)
～子どもと見たい展示を考える～[博物館]
日時／6月11日(土) 13:30～16:00
対象／高校生以上 15人
申込締切:5月31日(火)

催し物の詳細や最新の情報は、当館ウェブサイト、および公式Twitterでご確認ください。

[公式ウェブサイト] <https://nh.kanagawa-museum.jp/>
[公式Twitter] @seimeinohoshiPR [混雑情報Twitter] @seimeinohoshiCI
[問合せ先]企画情報部 企画普及課 TEL: 0465-21-1515

生命の星



ライブラリー通信 文人たちの博物誌⑩ 市河 三喜の巻 「博物之友」を刊行した英語学者

つちや さだお
土屋 定夫(司書)

市河三喜(1886～1970)は明治から昭和にかけて英語学を研究し、日本の英語学の礎を築いた学者です。日本人初の東京帝国大学英文科の教授や日本英文学会会長、英語教育研究所所長などを歴任、文化功労者としても表彰されています。

英語学に関する著書が多くありますが、随筆家としても知られ、今回取り上げた『私の博物誌』のような語学とは異なる分野の本も著しています。動植物に関する随筆をまとめたものですが、本書によると、三喜は幼少の頃から昆虫や植物の採集と飼育が好きで、「博物之友」という一文に東京府立第一中学校(現：日比谷高等学校)在学中に同志とともに日本博物学会を組織し、その機関誌として「博物之友」を創刊したと記しています。明治33年5月、14歳の時でした。

「博物之友」は当初は手書きの回覧雑誌でしたが、会員数が増えたため、明治34年6月からは印刷にして会員に配布しています。会名も「日本博物学同志会」と改めました。

昆虫学者の江崎佛三は日本昆虫学史料について、『日本博物学同志会とその機関雑誌「博物之友」とは明治末期の本邦博物学史上に特筆すべき事項でなければならぬ』と書いたと三喜は記しています。

また、植物学者の牧野富太郎に関する一文では、牧野の『普通植物検索表』の推薦文を書くにあたり、牧野邸を訪れた際のエピソードを披露しています。いろいろと話をするうちに「日本の英和辞典には植物名の訳に間違いが多く、oliveはいつも橄欖かんらんと訳してあるが、あなたなど率先してこういう誤訳を直して下さらなければいけない。」と言われてしまい、後で調べてみたらやはり「かんらん、オリーブ」となっていて恐縮したそうです。その後、三喜が直したかどうかは定かではありません。



私の博物誌
市河三喜著

中央公論社 1956年

自然科学のとびら
第28巻1号(通巻106号)
2022年3月15日発行
発行者 神奈川県立生命の星・地球博物館
館長 平田大二
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
TEL: 0465-21-1515 FAX: 0465-23-8846
編集 本杉 弥生(企画普及課)
印刷 株式会社あしがら印刷

© 2022 by the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History.